

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500360
法人名	医療法人 愛寿会
事業所名	グループホーム多喜浜
所在地	愛媛県新居浜市多喜浜2丁目4番43号
自己評価作成日	H24年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「安心、満足度、信頼度」をモットーに一人ひとりが家庭的な環境のなかで穏やかに生活でき、利用者さまの明るい笑顔や笑いが絶えない毎日が送れるよう頑張っています。日々の健康管理や、一般状態の観察を丁寧に行い、近くにある協力医療機関と密に連絡がとれています。職員間の連携もスムーズであり、利用者様とも良い関係が築けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年3月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●ユニットの間のスペースは「多目的ホール」になっており、グランドピアノを置き、音楽療法時や行事、運営推進会議時に使用されている。庭や中庭等の空間には、日本庭園が造られてあり、窓越しに紅葉の木や庭の様子が見えて趣きがある。  
 ●管理者は、日頃から「利用者が一番に考える」ことや「職員は居間で利用者と過ごす」よう職員に話しておられ、利用者の思い等を知ることを大切に取り組みされている。調査訪問時には、テーブルに懐かしいラムネやお菓子を用意して、職員は、利用者の間に座り、昔の映像を集めたDVDを見ながらそれぞれの昔の暮らしのことを教えてもらっていた。  
 ●管理者は、利用者の安心に向けて「利用者に応じた支援に努め、無理強いない」支援を目指しておられる。さみしがる利用者には、職員が横に座りおしゃべりしたり、お好きな歌やトランプ等をして過ごすよう支援されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム多喜浜

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)  
氏名 金谷 密代

評価完了日 平成 25 年 2 月 5 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者一人ひとりが安心、安全で満足感のある生活を送れる事を理念とし、毎日、理念・運営心得を読み上げ、職員間で共有し個々の心に刻み反映するよう心掛けている。	
			(外部評価) 法人理念の「医療、福祉の融和をコンセプトにオープンで透明感のある安心度 満足度 信頼度の高い医療・保健・福祉を提供し、地域社会に貢献します」を、事業所の理念としても掲げておられる。理念は、玄関や事務所に掲示し、職員は、毎日読み上げておられる。今後は、さらに理念を実践につなげられるように、管理者は、日々のケアの中で職員に語っていかれてほしい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 開設して約1年となる。外出や散歩の際、地域の方との挨拶や校区の文化祭等の行事に参加をしている。保育園児の訪問があり、これからも交流して頂けるようになっている。	
			(外部評価) 事業所前の道は地域の方の散歩コースにもなっており、散歩中に立ち寄り、利用者とはふれ合われる方もあった。又、よく利用する近くのスーパーの店員が、事業所の見学に来てくださった。新居浜祭りの際には、太鼓台が事業所に来てくれて、お花代を用意された。現在は、法人の考えもあって、「自治会には入らない」ことになっているが、運営推進会議時に自治会長の方は、「自治会で協力できることがあれば手伝う」と言ってくださっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所としての地域貢献は難しいが運営推進会議時などで認知症を理解していただく為の話をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、利用者の近況報告、健康状態取り組んでいることなどを説明し、意見交換をしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、自治会長・老人会長・ご家族や市の担当者の方が出席されており、事業所の「多目的ホール」で、午後2時から1時間程度行われている。会議では、事業所から利用者の状況を報告し、行事の実施報告、又、今後の予定を知らせ意見交換をされている。自治会長からは、地域の小学校で行われる地区の文化祭に誘っていただき、出かけるきっかけとなった。事業所では今後、会議に「近所の方等、地域の方達に多く参加いただきたい」と、考えておられる。いろいろな方に積極的に声をかけ、参加を呼びかけていかれてほしい。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進委員として毎回包括支援センターより担当者に参加してもらったり、市役所を訪問したり、電話等で相談、アドバイスをして頂いている。 1月より、2ヶ月に1回の介護相談員の訪問があり、意見交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方から他事業所の会議のテーマ等を教えていただいたり、地域包括支援センターの担当者からは、多喜浜小学校6年生・川東中学校3年生対象に、認知症について講話された活動の報告があり、活動を通じて「地区の認知症の理解が広がっている」と感想も話された。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 外部研修会に参加し、理解を深めている。また、日頃から職員間で身体拘束について話し合っている。</p> <p>(外部評価) 門扉や玄関に鍵をかけず、日中は出入りできるようにされている。調査訪問時には、複数家族の来訪があった。又、廊下のつき当たりからも出られるようになっている。事業所建物は、中庭を挟み、2ユニットをひと回りできる回廊型になっている。現在は、ひとりで出かけていく方はおられないようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>研修会に参加し、理解を深めている。また、日頃から虐待と見なされるような発言や態度がないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>現在必要とする人はいないが、H24年11月に管理者、生活相談員が「成年後見制度」の研修を受けた。</p>	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>(自己評価)</p> <p>契約時には必ず、重要事項説明書を読み合わせし、説明を十分に行っている。疑問点に関しても丁寧に説明し同意を得ている。また、分からない事はいつでも問い合わせるよう、お伝えしている。</p>	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者との日頃の会話の中から意見、不満、苦情を聞き出し、家族には来訪時や家族会議、運営推進会議で意見や要望を聞くようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者は、利用者やご家族との関係作りに力を入れて取り組んでおられ、「ここに入居してよかった」と、安心を感じてもらいたいと日々取り組んでおられる。利用者個々の担当者は、ご家族来訪時にあいさつしたり、電話では、必ず名乗ってからお話する等、ご家族に覚えてもらえるよう取り組まれている。利用者のことを心配して、毎日会いに来られるご家族へは、ご家族が見ておられない時間帯の活動のエピソード等も報告されている。ご家族がおやつを持参され、居室で利用者とおやつを楽しまれることも多いようだ。12月には「年賀状作り」、6月には「父の日」を兼ねて「家族会」を行われた。4組ほどのご家族の参加があったようだ。ご家族より、「行事予定を知りたい」と希望があったことがきっかけで、玄関に掲示しておられ、ご家族も行事に参加いただけるよう、呼びかけておられる。</p>	<p>今後、「家族会」等を通じて、ご家族に事業所のケアサービスを見たり体験していただきながら、より具体的な意見や要望を引き出していかれてはどうだろうか。普段の食事を一緒に食べるような機会や、献立表を見ながら意見をうかがったりしてはどうだろうか。又、ご家族はケアパートナーでもあり、今後もさらに、ご家族も一緒にケアしたり、楽しんだりするような機会を積極的に作っていかれてほしい。</p>



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎朝のミーティング時に意見や提案を聞き、運営に反映するように努めている。	
			(外部評価) 各ユニットのレクリエーション担当職員と管理者で話し合い、行事を決めておられ、夏の「そうめん流し」や「花火」、10月に事業所内で行った「運動会」等を行われている。ユニットリーダーは、職員個々の話をよく聞き取り、チームワークを作れるよう取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業所が職員の勤務状況を把握し、状況の変化にも対応できるように整備を行っている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内を掲示し参加できる体制にしている。、勉強会を行い一人ひとりのケアの在り方を見直している。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会の研修会に参加し、質の向上を図ると共に、他施設との交流を図っている。	
			(外部評価)	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人、家族と面談し納得して入居できるよう、本人の思いを傾聴するよう心がけている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安に思っていることや、困っている事等、また、要望など、遠慮せずに話して頂けるよう、話している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族から相談を受けた時、状況に応じて、今必要としている支援が出来るよう対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者、一人ひとりのできる事を見つけ、一緒に行っている。それぞれの得意としている分野については職員が利用者に教えてもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の来訪時、利用者の健康状態、日頃の生活ぶりを伝え、行事などにも参加してもらい、利用者を共に支えていく関係作りをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人が直接、施設に訪ねて来て下さったり、遠方の兄弟が訪問して下さる。住んでいた馴染みの場所へはドライブがてら行き近所を散歩している。 (外部評価) お盆や正月には、ご家族と外出や外泊をされたり、又、親戚の方等が会いに来られたりする。お盆には、ご家族がお墓参りにお連れする方もいる。調査訪問日、お孫さん達からはがきが届き、笑顔で目を通して利用者の様子がみられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士がトラブルを起こさないよう、日々のレクリエーション等を通して利用者同士の関わりを深めている。トラブルがあった時は職員が間に入り利用者が孤立しないよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時には今後も相談に乗れることとお話している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の様子(表情、言動等)を見ながら、利用者一人ひとりに対して声掛けや関わりを持ち、本人の思っている事や意向をくみ取り、把握に努めている。 (外部評価) 開設時から利用者一人ひとりについて、ケアカンファレンスを重ねておられ、職員間で情報共有に努めておられる。管理者は、日頃から「利用者を一番に考える」ことや「職員は居間で利用者とお話する」よう職員に話しておられ、利用者の思い等を知ることが大切に取り組まれている。調査訪問時には、テーブルに懐かしいラムネやお菓子を用意して、職員は、利用者の間に座り、昔の映像を集めたDVDを見ながらそれぞれの昔の暮らしのことを教えてもらっていた。利用者は、テレビの料理番組がお好きで、「食べてみたい」と希望されるようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) その人の経験や生活歴、生活環境、また、これまでのサービス利用の経過については、本人との会話や家族、サービス提供事業者からの情報提供にて把握を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の体調、心身状態は毎朝のミーティング時に話し合い全職員が把握に努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>全身状態の観察により、利用者の状態を見極め、本人、家族等の意見を頂きながら、介護計画を立案、作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族は来訪時に、利用者の様子をみながらケアへの要望等を話してくださり、その情報を踏まえて介護計画を作成されている。入居時は1ヶ月、その後は短期で3ヶ月、長期で6ヶ月ごとに計画を見直しておられる。日々の介護記録には、介護計画の内容を記しておられ、職員が共有しながら日々取り組めるよう工夫されている。ケアマネジャーは3ヶ月ごと、日々の介護記録から支援状況を抜き出してモニタリングを行っておられる。</p>	<p>管理者は、「2年目は行動する一年にしたい」と話しておられた。又、職員は、個別支援に取り組み、個々の得意なことを続けられるよう、支援したいと話しておられた。趣味の編み物等を行えるよう介護計画にも盛り込み、ご家族にも協力を得たいと話しておられた。利用者やご家族と相談しながら、いろいろな支援にチャレンジして、利用者の楽しみを作っていてほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>記録は本人の言動や様子がわかるよう記録するよう努力しているが難しい。利用者の現状にあった計画が実施されているかを確認しながら対応し、情報を共有し変化に伴った支援が行えるようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の家庭状況の変化により、出来る事は職員が対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に自治会長、老人会会長が参加されており、地域の情報を教えて下さったり、グループホームの活動に協力していただけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医に受診してもらっている。その都度、日常の情報提供を行っている。	
			(外部評価) ご家族が受診に付き添われたり、職員が同行して納得のいく医療機関で診てもらえるよう支援されている。又、いざという時には、往診も可能である。事業所では、痰吸引器を準備しておられ、いざという時には、研修を受けた職員や看護師資格を有する管理者が使用することになっている。管理者は、職員に、利用者の状態変化に気付く力や観察力を付けてほしいと取り組まれており、小さな変化についても、管理者に報告して、管理者が医療機関につなげておられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 施設内の看護師は利用者全員の状態を把握し、職員との信頼関係を保ち、適切なアドバイスを行っている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時、家族とも相談しながら、主治医、看護師、相談員などと情報を交換し、ご家族の意向を尊重しながら対応している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の重度化については、本人、家族、医療機関などの人と協議、検討し、利用者ごとに状況を見ながら、どのように支援を行えるか、その都度検討しながら実施していきたい。	
			(外部評価) 利用契約時に、事業所の看取りの指針に基づき、ご家族に終末期の支援について希望をお聞きしており、現在は、すべてのご家族が「事業所で最期までお願いしたい」と希望されている。事業所では、「ご家族がしてほしいことを行うことも大切にしたい」と考えておられる。 時をみて、利用者の終末期の希望等についても情報収集に取り組まれてほしい。ご家族とともに利用者を最期まで看るためにも、時には事業所の看取りの指針にも沿いながら、一緒に勉強するような機会も作ってみてはどうだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応マニュアルがあり、マニュアルに沿って対応を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) H24年11月に消防署の指示の元、1回目の自衛消防訓練を実施した。避難場所はホーム裏北側駐車場で利用者の誘導もスムーズに行うことが出来た事故発生時の緊急連絡網を整備。A・B棟共にスプリンクラーも設置されている。運営推進会議にて地域の避難場所の確認を行っている。	
			(外部評価) 11月の避難訓練時では、夜間の火災を想定して避難訓練を実施された。裏の空き地が事業所の避難場所になっており、ご自分で歩ける方のみ、実際に避難することを体験された。長崎のグループホーム火災を受けて、市の消防署が講習会を開催された際には参加され、管理者は、カーテンやのれん等が防災製品になっているか、再度事業所内を点検され、トイレの入り口の暖簾を外された。3月下旬には、消防署の協力を得て、避難訓練を行う予定となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ誘導の声掛けは他者に分からないよう、声掛けするように気をつけ、プライバシーを損なわない対応に努めている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の安心に向けて「利用者に応じた支援に努め、無理強いしない」支援を目指しておられる。さみしがる利用者には、職員が横に座りおしゃべりしたり、好きな歌やトランプ等をして過ごすよう支援されてる。今後はさらに、利用者の生活の意欲や自信を引き出すような職員のかかわり方等についても、工夫されてみてほしい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃の会話の中から利用者の思いや希望を聞く事により、自己決定できるよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせて、ゆったり過ごして頂くように心がけているが、時間に追われることもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服は自分で選べる方は選んでもらい、個々の好みや、状態に合わせた、おしゃれ作りができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の献立表は本部の施設からもらい、食材は職員が毎日、買い出しに行っている。週に1度、自由メニューで利用者の好みの物をつくっている。食事の準備や片付けは出来る範囲で一緒にしてもらっている。	食事について、利用者の得意なこと等も活かしながら、利用者のできることは、ご自分で行えるような支援に工夫されてほしい。グループホームだからできる支援を工夫して、利用者が食事を楽しめるよう、取り組まれてほしい。
			(外部評価) 法人介護施設の献立に沿って、職員が食事を作っておられる。職員は、利用者と同じ食事を食べられるが、介助の必要な利用者の隣りに座り、介助に徹しておられたり、ユニットによっては、職員は、別のテーブルで食事をされていた。お茶碗やお箸、湯のみは、ご自分のお気に入りの物を使用されている。金曜日の昼食は、利用者に希望を聞き、カレーやお寿司を利用者と一緒に手作りされている。利用者は、お寿司の合わせ酢の調整をしてくださったりするようだ。職員は、「～さんが作ってくれた食事を皆で食べましょう」と声をかけて、皆でおいしく食べておられる。現在、夕食の時間がだんだん早くなってきており、17時から食べるようになっている。利用者は、食後には、空いた器を寄せて、職員が下げやすいようにしてくれるようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の嗜好を把握することにより、摂取量の確保の目安にしている。食事の栄養バランスは本部施設の栄養士がカロリー計算しており、食事量や水分量は毎回記録し、チェックしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後のうがいや、歯磨きが出来よう声かけや誘導を行い、利用者の口腔状態に応じたケアを行っている。週1回、歯科衛生士による、口腔ケアを実施。夜は義歯の消毒を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>「生活リズムパターン」の記録で一人ひとりの排泄リズムを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自分でトイレに行かれる方も多く、利用者は、トイレ扉の上部のすりガラスに灯りが見えたら、トイレ使用中であると認識されているようだ。トイレの表示を大きく作り、利用者に分かりやすいようにされている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>排便チェック表で排便をチェックし、水分摂取の声掛け、散歩などを促しながら、定期的な下剤の服用により排便コントロールをしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>日曜日以外は毎日入浴を行っているが、拒否された場合は無理に誘わず、翌日に入浴してもらったり、曜日にこだわらず入浴してもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>月～土曜日、お風呂を沸かして、利用者が週に3回は入浴できるよう支援されている。時には入浴剤を入れる日もあり、利用者はとても喜ばれている。「立つことができない利用者は、浴槽で温まる支援は難しい」ようで、足浴をしながらシャワーで温まれるよう支援されている。お風呂好きな利用者の方が、現在は、浴槽で温まらない状況にあり、今後、介助の方法等、工夫を重ねられて、利用者が入浴を楽しめるよう支援に努めていかれてほしい。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの体調やペースに合わせ、居室で休んで頂いている。</p>	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬袋に名前、日付、朝、昼、夕の用法を記入し服用時は名前と顔の確認を行い、服薬後は毎回、投薬した者が服薬欄に「○」を入れている。薬の目的や用法については、薬局が発行してくれる説明書で理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の手伝いや洗濯物を畳んだり、テーブル拭きをして頂いたり、花の水やり等、役割を見つけることで、張り合いのある生活を送れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 5月～7月末までは毎日の散歩と週に1回、職員と一緒に買い物に行っていたが暑さのせいもあり、ホーム内の回廊を歩くようになった。今は中庭で日向ぼっこをしたり、天気の良い日にホーム周囲の散歩を行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、ご家族から、「どこかに行くことがありますか」と質問があり、事業所からは、「軽自動車一台のみであること」「職員数のこともあり、現在は日曜日だけの外出になっていること」を答えられた。	利用者からは、出かけたという希望も聞かれるようだ。利用者が日常的に出かけられるような支援に向けて、職員の時間の調整やご家族やボランティアの協力を得ながら、支援を工夫されてみてほしい。利用者やご家族の希望等もお聞きしながら、個別に出かけるような機会も増やしていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が難しい人が殆んどで、お金を預かり職員が代わりに支払っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者からの電話のご希望があれば、その都度対応している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 光が強すぎないように、季節に応じてすだれやカーテン等を利用している。空調調節を行い、居心地のよい空間を提供し、壁や掲示板には四季折々の季節を味わえるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室、共用空間とも職員が掃除をされている。感染予防のため、手すりは消毒液で拭くようにされている。廊下のつき当たりの日当たりのよい場所に長椅子を置き、利用者が居間からちょっと離れたところで過ごせるようになっている。裏の空き地は、菜園をつくる予定になっている。ユニットの間のスペースは「多目的ホール」になっており、グランドピアノを置き、音楽療法時や行事、運営推進会議時に使用されている。庭や中庭等の空間には、日本庭園が造られてあり、窓越しに紅葉の木や庭の様子が見えて趣きがある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共有の場所にベンチ、堀こたつが設置され、思い思いの時間が過ごせるよう工夫している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家族と相談しながら、馴染みの物、家族や孫の写真、好みの物を持って来て頂いている。希望に合わせて畳みを敷き、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 夜は、居室でテレビを見たりラジオを聞いたりして過ごされている。日中、居室で少し横になって休む利用者もおられるが、利用者は、居間で皆と過ごされることが多い。ご家族用の椅子を置いている居室もみられた。ご自分が以前、鉤針編みで編んだケープを見せてくださった方もあった。小さな鏡台の前に化粧品や櫛を準備して、ご自分で使用している方もいる。机の上のノートを用意して食べたものを書いておき、職員と食べたことを確認する利用者もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレ、廊下、浴室に手すりを設置している。浴槽には滑り止めを敷き、介助バーや介助チェアを設置している。トイレの表示や自室に表札をつけて、分かりやすくしている。</p>	